

ワークショップを終えて

今回は、これまでの理想論から一歩進んで、修景する具体的な方法や、修景の問題点や留意点について話し合いました。話し合いの中で、見た目が良いことだけでなく、洪水、火事、地震などへの対策や金銭的な問題についても考えたうえで修景の方向性を出すべきだという意見を伺うことができたのは、今回の一つの収穫であったと感じております。

一方で、前回からの課題であった「これからの世代の人たちの声を聞く」ことについては、まだ不十分であると感じております。そこで事務局では、八帖町にお住まいの方を対象にアンケートを実施し、ワークショップに参加していない方々を含め、幅広く八帖地区の景観づくりについてのご意見を集めたいと考えております。結果は、今後の八帖地区の景観づくりに反映させていただきますので、ぜひこの機会に皆様の思いをお伝えください。

今後、八帖町にお住まいの方を対象に、景観づくりに関するアンケートをお願いする予定です。ご協力をよろしくお願いいたします。

ご意見をお聞かせください

参加者の皆様、ご協力ありがとうございました!

次の世代に残るまちづくりをしたい。

ワークショップの感想

- ・失われる街道の風景を残すためにどうしたいのかという、住民の意見がよく分かった。
- ・まちなみをよくなる意識が市民に広がることは、まちにとってとてもよいことだと思う。
- ・市の担当者も熱心に説明され、今後の展開に期待したいと感じた。
- ・八帖町全体で統一できることは何か、具体的な形で踏み込むことができた。
- ・実現できる前提でのワークショップでありたい。当事者自らの方向に進めていくべきだと思う。次の世代に残るまちづくりをしたい。



八帖景観ワークショップニュース

かいらん

Vol.3 2010年1月
編集・発行 岡崎市都市整備部 都市計画課

八帖景観ワークショップの第3回は、「効果的な景観づくりの手法」をテーマに開催されました。



日本瓦にすると...

問題点あるかな?

8人の市民が参加し、かつて東海道であった往還通り沿いのあるお宅を例として、景観づくりの手法等について意見を交換しました。

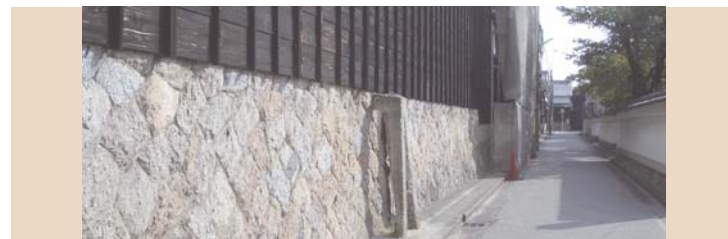
実際に壁をかえるとすると...

ワークショップの様子

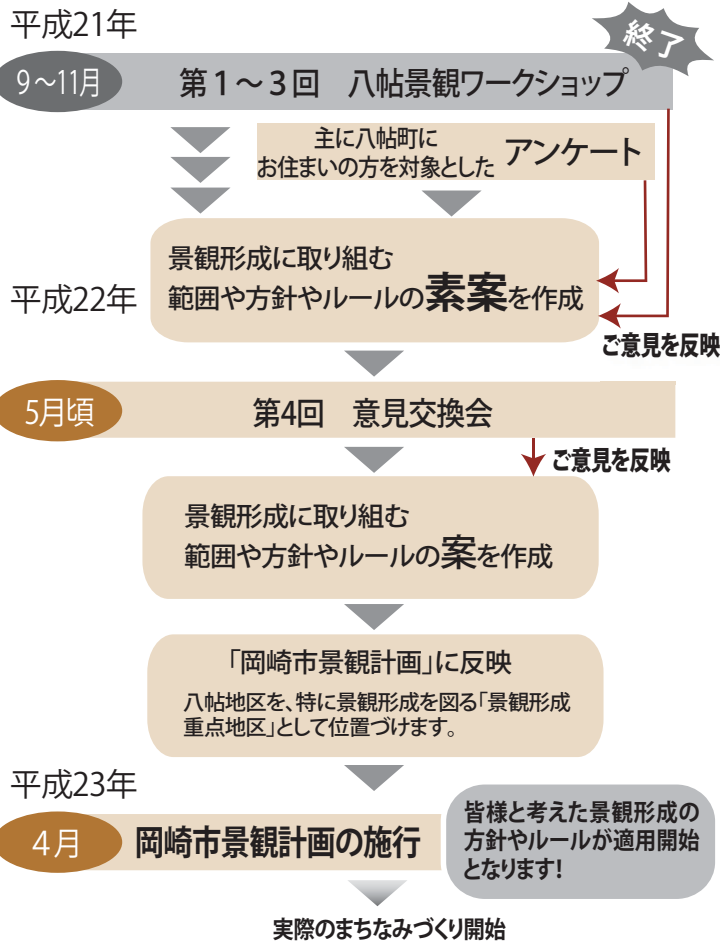
お知らせ

来年の5月頃に第4回ワークショップとして、「意見交換会」を行います。これまでのご意見を基に、市が作成した八帖地区の景観づくりをすすめる範囲や方針、ルールを示した素案について、皆様からのご意見をいただく予定です。その後、地域らしさを活かしたきめ細やかな景観まちづくりをすすめるため、八帖地区の景観づくりのルールを平成23年4月に施行予定の「岡崎市景観計画」として定めます。

平成22年度5月の意見交換会の詳細については、決まり次第ご連絡いたしますので、皆様ご参加くださいますよう、よろしくお願いいたします。



八帖地区の風景づくり~今後の予定



第3回ワークショップの概要

12月13日の午後に、第3回八帖景観ワークショップが開催されました。

第3回は、第2回で実施した「八帖地区がめざす景観づくり」を実現させるための「効果的な風景づくりの手法」について、かつて東海道であった往還通り沿いの、あるお宅を例に話し合いました。

良好な景観をつくるための具体的な方法や問題点、取り組む範囲を考えて、八帖地区の景観づくりについて、実際に行うことのイメージを高めました。

ワークショップの様子

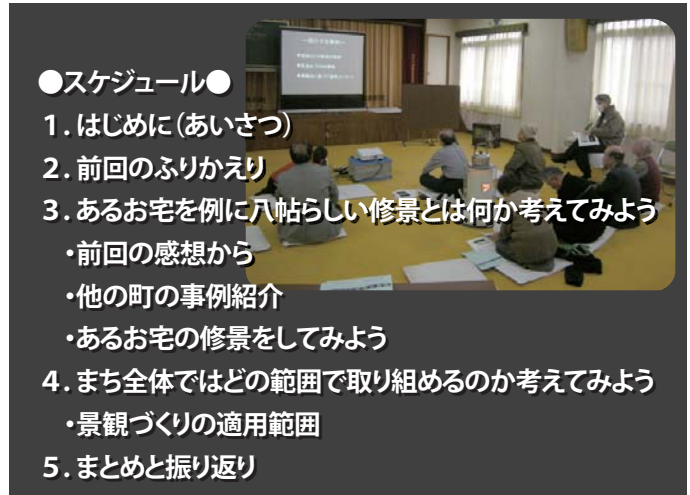


方法は?

問題点は?

あるお宅を例に考えてみよう

今の建物について、どこをどのように変えると八帖らしい景観となるのか? また、変えることで問題はないのだろうか? という話をしました。



●スケジュール●

1. はじめに(あいさつ)
2. 前回のふりかえり
3. あるお宅を例に八帖らしい修景とは何か考えてみよう
 - ・前回の感想から
 - ・他の町の事例紹介
 - ・あるお宅の修景をしてみよう
4. まち全体ではどの範囲で取り組めるのか考えてみよう
 - ・景観づくりの適用範囲
5. まとめと振り返り



範囲は?

まちで取り組めることは?

八帖らしいまちなみをつくるためには、あるお宅で考えた修景のデザインについて、まち全体ではどの範囲で取り組むのがよいだろうか? ということを考えました。

※5月の意見交換会については、詳細が決まり次第、ご連絡します。

■ 八帖らしさとは…あるお宅を例に修景を考えてみよう!

修景とは建築物の見た目を周囲に調和させることを指します。第3回は八帖らしい景観をつくるために、建築物をどのように修景すると良いのか?ということについて、かつて東海道沿いの町家の一つであった、あるお宅を例に考えました。具体的に屋根や窓といった箇所をあげ、「素材は?」「色彩は?」と考えることで、実際に自分が修景するイメージを高めました。

また、見た目が美しくても住みにくいなどの問題があつては、景観づくりの意味がありません。そこで、今回考えた修景方法が、住み良さを損なうことがないのだろうかということ、留意点としてあげること

した。修景の方法は、概ねの方が「東海道と地場産業(味噌)の歴史を感じられる修景をしたい」という内容のご意見でしたが、「素材も日本瓦や板塀など本物が良い」という考え方と「素材はスレートなどの近代の素材とし、見た目や色調が歴史を感じるものであればよい」という考え方と大きく2通りが挙げられました。

また、留意点としては、「板壁は耐火性がない」「耐震性も考えると屋根は軽量化したい」「日本瓦は価格が高い」等の、実際に施工したり、生活するうえでの現実的な問題点があげられました。

■ まち全体では、どの範囲で取り組むことができるか考えてみよう!

あるお宅を例にして考えた、景観づくりのための修景方法は、あくまでも一軒の建築物を対象としたものでした。しかし、まちなみとは、複数の建築物によって構成されます。つまり、よいまちなみをつくるためには、ある程度の範囲を定めて全体で取り組む必要があります。

このため、あるお宅で考えた修景方法を、まちのどの範囲で取り組んでいくのがよいのか?ということをもみんなで考えてみました。

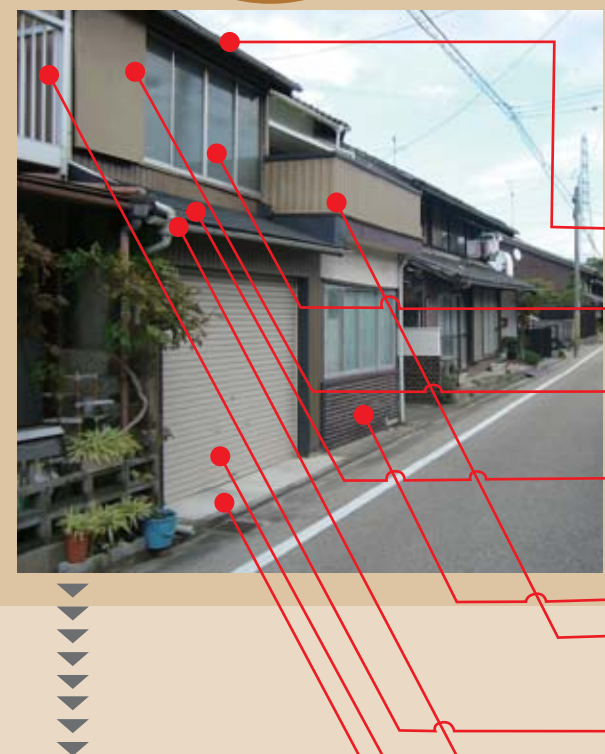
その結果、建物の高さは八帖全域で制限をしたいとの考えで一致しました。ただし、既に制限を超える

建物の扱いは、「建て替え後は高さを制限以下とする」という意見、「現状の高さは認める」という意見など、複数の意見がみられました。

また、その他の方策についても、概ねの考え方は一致するものの、修景の重要さ等に応じて「全ての公道沿いを対象とする」という意見や、「往還通りはじめ特定の通り沿いを対象とする」という意見など、具体的な制限などの方法は、参加者の中でも幅広い意見があることがわかりました。



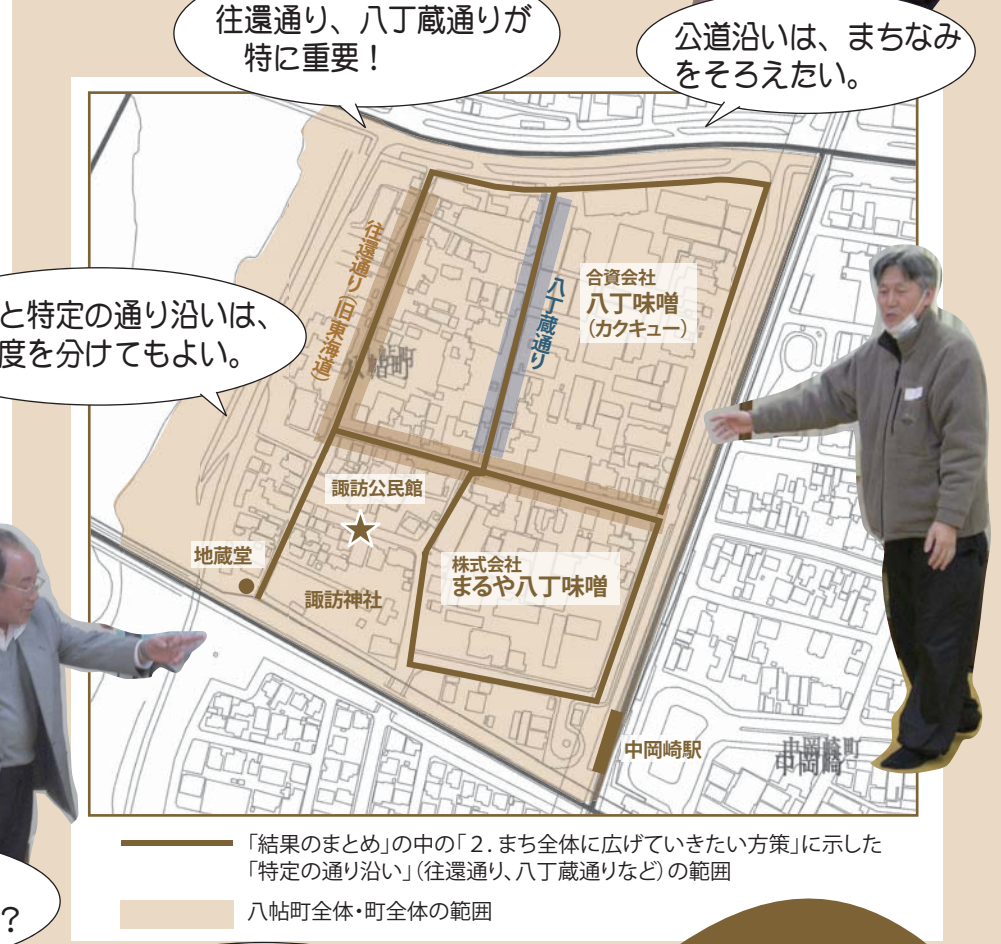
現在のところ 修景前



結果のまとめ

1.あるお宅をよりよくするための方法と留意点	
よりよくする方法	住み良さを損なわないための留意点
高さ	・高さ制限(10m程度) ・2階は1階よりせり出さない。
屋根	・日本瓦(黒系で統一) ・ねずみ色 ・新素材でも見た目が昔風
窓	・格子(茶色)
戸袋	・色調 ・落ちついた色彩 ・格子(木製)
軒・屋根	・新素材でも、見た目は日本瓦風に見えるものにする ・ねずみ色
壁	・板壁にする ・白壁にする ・色調をチョコレート色にする ・ナマコ壁にする
テラス	・テラスは木製にする ・金属製でも見た目が木目調のものにする
シャッター	・チョコレート色にする ・落ち着いた色調にする(黒系)
屋外設備	・格子などで隠す
雨樋	・落ち着いた色調にする(黒茶系)
タタキ部	・犬矢来 ・タタキ部→石張り風

2.まち全体に広げていきたい方策	
まとめ	方策を広げる範囲
高さ制限	・八帖町全域 ・既存の建物は除く
屋根の素材と色(黒・グレー等)	・八帖町全域 ・特定の通り沿い(※右図参照)は日本瓦らしくみえる素材にするが、その他の地域は色調のみそろえる
窓の意匠(格子窓)	・公道沿いは全て ・特定の通り沿いは格子をつけたデザイン、その他の地域は色調のみそろえる
軒の素材と色(黒・グレー)	・公道沿い ・特定の通り沿い
壁の素材と色(板張り、白壁等)	・公道沿い ・特定の通り沿いは、板壁や白壁とするが、その他の地域は色調のみそろえる
テラスの素材等	・公道沿い ・八帖町全域
シャッターの意匠や色	・公道沿い ・八帖町全域
室外機等の遮蔽(格子)	・公道沿い ・特定の通り沿い
雨樋の色	・公道沿い ・八帖町全域
その他(犬矢来やタタキ部の石張り)	・公道沿い ・特定の通り沿い



素材はともかく色調はそろえる。
洪水、地震、火事対策はしたい。
屋根は日本瓦に。
あまりお金がかかるのは困るな…
八帖らしいまちなみには板塀や蔵の白壁が必要。



改めて見ると、往還通り沿いの家は、軒先が揃っています。素材や色は近代的になりましたが、東海道の面影も残っていることがわかります。



効果的な景観づくりの手法とは?

屋根の色は町全体でそろえられるのでは?
高さは八帖町全体でそろえないと…
格子は特定の通り沿いまでかな。

全体と特定の通り沿いは、重要度を分けてもよい。

往還通り、八丁蔵通りが特に重要!

公道沿いは、まちなみをそろえたい。

「結果のまとめ」の中の「2. まち全体に広げていきたい方策」に示した「特定の通り沿い」(往還通り、八丁蔵通りなど)の範囲
八帖町全体・町全体の範囲